

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3870500422		
法人名	医療法人 十全会		
事業所名	グループホーム「むつみの家」		
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9-52		
管理者	矢野幸男		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	5月31日	評価確定日	7月19日

【情報提供票より】(19年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年3月12日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	24人 人
職員数	23人	常勤	23人, 非常勤 人, 常勤換算

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,032 円			

(3) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	24名	男性	8名	女性	16名
要介護1	5名	要介護2	10名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	名		
年齢	平均 84.7歳	最低	70歳	最高	96歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり(なし)	指定認知症対応型通所介護
届出 あり(なし)	短期利用型共同生活介護
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りに幼稚園、小・中学校や、買い物にも便利なスーパー等もあり、民家に囲まれた、民家改造型と、認知症のホームとしてあとに建設された建物を含む3ユニットのホームである。地域との交流も活発に進められている。管理者は東予地域のリーダー的存在で、介護保険制度開始前より認知症ケアに取り組んでいて、認知症ケアについて熟知している。管理者、職員共にケアの質の向上の大切さを理解しており、意欲的に課題をあげ、改善に取り組んでいる。また、そのための研修体制もできている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
前回の評価を踏まえ、情報の共有を図るため、申し送り時に時間をかけ徹底している。定期的学習会への参加や、研修参加後の報告の徹底、運営推進会議に各ユニットからの参加人数を増やしていく取り組みを実践中である。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
今回から評価の様式・項目が変更になり、調査日程までの期間があまりなかったため、4月から1項目づつリーダーを中心に全職員が意見を出し合い、課題を抽出し、今後の取り組みについてまとめた。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
運営推進会議は2か月に1回開催している。5月の開催で5回目である。利用者の家族、地域の自治会長や民生委員、市担当職員、自治会の住民等が参加し、会議では利用者のホームにおける生活や行事の報告は勿論、地域住民に認知症を理解していただくために「グループホームとは」、母体病院から講師を派遣して「認知症を知ろう」の講演会や介護予防制度についての説明、また、参加者の市行政や地域住民からの意見をうかがう機会にも活用している。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
家族の面会が多いホームである。家族の面会時や運営推進会議などで、利用者の生活について説明し、意見や希望をうかがっている。また、遠方の家族等については毎月の報告やホーム便り送付時、電話などで対処している。
▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
設立時より自治会に加入し、地域行事(敬老会、運動会、保育園へ訪問など)に参加し、交流が密に図られている。また、毎日食材の買い物や散歩など地域の方と接する場面づくりを多くもっている。ホームに隣接するホール(ホーム所有)が災害の避難場所となっているので、合同訓練などを通じて連携が更に深められる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 むつみの家

(ユニット名) 1 棟

記入者(管理者)
氏名 矢野 幸男
松島 武子

評価完了日 平成19年 5月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 設立当時に作られたものである。ユニット別にも、作ろうとしたが、実行に至っていない。	※	管理者の声掛けのように単独で力を入れる目標を掲げて行きたい。
			(外部評価) 法人によって定められたものを理念として掲げている。法人の理念を職員の理念として活かしていくため、理念を活動の月目標として実践に取り組んでいる。	※	法人の理念を踏まえ、地域密着型サービスの役割を考え、理念の再構築に取り組む予定がある。その取り組みに期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 設立より、10年が経つので、管理者より、部署会などで、取り組んでいるか、自分達で見直して欲しい。と話がある。	※	今後も初心を忘れずに取り組んでいきたい。
			(外部評価) 管理者と職員は理念を共有し、理念を月間重点目標として取り上げ、日々のケアを実践している。	※	再構築を予定している理念についても、構築後は従来通り実践の取り組みに期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を開催するようになってからは、会にて必ず働きかけをしている。		今後も続けて行きたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 挨拶を重視している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 設立時より、自治会に加入して、地域への働きかけや行事への参加も徐々に増やしながら交流を図れるようにしている。	※	今後も地域の方にも理解を含め協力が必要な時にもすぐに来て頂けるように、お付き合いをして行きたい。
			(外部評価) 設立時より自治会に加入し、交流を図っている。保育所のクリスマス会や文化祭、小学校へは運動会の職員の参加や利用者の見物、中学生には職場体験等で交流し、地域の方たちとは散歩や買い物時を通じて交流が図れている。	※	今後ますますの積極的な取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方も高齢化が進んでいるとの自治会長さんからのお言葉もあったので、運営推進会議にて働きかけをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 管理者より説明は受けるので、個々に理解はしている。 (外部評価) 3回目の外部調査の受け入れであるが、各回ごとに自己評価にも工夫をして、全職員が評価に対して真摯に討議して取り組んでいる。また、前回指摘された項目に対して、改善の実践に取り組んでいる。	※	今後はもっと活用して行きたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 行政、地域、家族、事業所の意見交換が出来る場なので、話し合いもしており、参加していない職員にも報告をして、活かしている。 (外部評価) 運営推進会議を活用し、利用者のケア実践についての報告と共に家族からの希望や意見をうかがう場としている。また、市行政や地域（自治会長等）からも意見を聞く場となっている。更に認知症の講演や制度の説明など参加者の研修の機会として活かしている。	※	今後も同様にしていきたい。 運営推進会議は工夫した取り組みができています。今後も更なる工夫に取り組み、地域のホームのリーダーとしての活躍を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 管理者が主に行き来をしている。しかし、市役所のグループホームに対する関心の無さを感じる。 (外部評価) 運営推進会議などで事業所の方針や考え方などを説明し、また市行政から意見を聞くなど連携が図られている。	※	今後十分な交流が図れるようにし理解を深めたい。 ※ 管理者は勿論、職員の会議参加者を増やし、多数の職員との連携を図ることも期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 左記についての勉強会はしていないので、分かりません。	※	学習する場・機会を持ちたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 部署会・勉強会で説明をして頂いている。言葉の虐待がまだまだ、感じる。	※	職員同士でお互いに気をつけないといけないことなので、頑張りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が説明をしている。		今後はスタッフ一人一人が説明出来る様になって欲しい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 特に機会を設けているわけではないが、職員が、利用者の希望等を管理者に伝えたり、主治医には、利用者が直接意見等を話されている。		利用者が自由に意見など言える雰囲気作りを心がけ、可能な限り反映していきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時及び電話連絡にておこなっている。 <hr/> (外部評価) 面会者が多いことがホームの特徴である。また、面会時や手紙等で定期的に利用者の暮らしぶりや金銭管理など家族に報告している。		家族が安心出来るような報告を続けて行きたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、不満は言っていると思う。また、受けた時には話し合いを持っている。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議等を通じて家族の意見を引き出すよう努力している。また、面会時に利用者の日頃の様子を伝えると共に希望をうかがっている。	※	表に出せないでいる家族の気持ちを察知出来る様に心がけたい 更に、家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに取り組むことを期待する。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 部署会・勉強会で個々の意見を聞く機会があり、可能な事は反映している。		より多くの職員からの意見を引き出せるよう、工夫が必要だと思う。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 臨機応変に出来ている。		続けて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 退職その他でのやむを得ない場合を除いては、配慮されている。		異動が頻回になると支障が多くなるし、同じ配置が長くなると、馴れ合いの可能性もあるので、他方面の影響を配慮していきたい。
			(外部評価) 定年などやむを得ない理由で退職したり、母体の病院に異動することはあるが、基本的に職員の異動は少ない。新しい職員が入ったときも利用者に説明し、混乱のないよう配慮されている。	※	馴染みの関係の大切さを活かし、馴れ合いとの区別に配慮しながらケアに取り組むことを希望する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験年数等に応じて研修参加の計画が立てられており、育成していこうと取り組まれている。		職員から積極的に参加する意欲を引き出して行きたい。
			(外部評価) 法人代表・管理者共に研修の意義を理解しており、職員の研修参加に積極的に取り組んでいる。事業所にとって必要な研修は全額事業所負担、その他の研修は休みを利用し、半額負担で参加している。	※	職員の研修参加に対するさらなる意欲を期待する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 職員同士の交流は相互研修のみで、各研修での交流はみられず、特に機会も持たれない。	※	現状に満足するのではなく、他の事業所と交流する事により、少しでも成長出来る事を望みたい。
			(外部評価) 定期的に市内ホームの管理者交流会を（年3～4回）開催し、ネットワークづくりを計画している。	※	現状に甘んじることなく、常に向上に取り組まれる姿勢の継続を期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 十分ではないが、取り組んでいる。		ストレスを表さないように職員についても配慮が必要だと思う。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 全員の把握を的確には出来ていないと思うが、取り組みはされている。		目に見えない努力や仕事をしている職員にも目を向けて、的確に把握をして欲しい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者本人より、家族から聴く機会の方が多い。		利用者からの意見を聴き、受け止めて行く努力をして行きたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居までに、何度か機会を作り、受け止めようと努力はしている。		引き続き努力をしたい。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他の施設、グループホームへの紹介など、柔軟な対応を行っている。	※	状況判断を的確にするために、情報を入手して、支援に取り組みたい
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族と協力し、除々に馴染める努力をしているが、入居＝サービス開始となっている。	※	具体的にどのような方法があるのかを、探って行きたい。(センター方式など)
			(外部評価) 小規模多機能型の機能を持たない単独型のホームであるため、デイサービスやショートステイなどを利用してからの入居ではないが、家族や本人に見学してもらい雰囲気等を確認のうえ入居へつなげている。	※	入居してからの関係づくりに努めているが、ホーム長や職員の事前訪問などを取り入れ、入居前からの馴染みの関係づくりを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 個別に関わることで、信頼関係を築き、本人の何気ないサインを見逃さない様にしている。	※	時間的に難しい時が多いが、入浴時間を利用して話している。
			(外部評価) 家族と共に利用者を支える姿勢が見受けられ、良い関係づくりができている。	※	支援する側、される側と言う考え方を持たないケアに取り組んでいるが、継続したケアの実践を期待する。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 全ての家族ではないが、面会時を利用して話したり、家が遠い家族とは、電話を利用している。		これからもサポートしていく努力をして行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族との間に入り、深入りしすぎないようにサポートをしている。		今後も同様に努めたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人・知人等の面会に来て下さっている。	※	個別の対応は出来ていない。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 気の合わない同士の間に入り、愚痴等の聞き役に徹している。入浴は時間をずらしたりしている。		全員が仲良く出来るのがベストではあるが、性格も違うし、妄想の対象にもなりうる。孤立されないように努めたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居された後も、お会いすれば挨拶を交わしたり、状況をお尋ねする時もある。		個人情報に関わる事もあるので配慮は必要である。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別に関わることで、本人の意向は聞いて上げる努力はしている。	※	本人の希望、意向を最小限でも家族と相談して行きたい。
			(外部評価) 会話や表情などから思いや意向を察知し、思いの把握に取り組んでいるが、職員はまだまだ十分な捉え方ではないと前向きに考え、常に利用者の立場に立てるよう取り組んでいる。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のデータベースを参考にしている。		センター方式の活用
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 本人の表情に注意している。身体変化にもバイタルチェックにて把握している。		生活のリズムを崩さないように支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的に行う予定ではいるが、来ていない時もある。しかし、対応が必要な時はその都度行っている。 (外部評価) 担当職員制を取り入れ、担当職員が計画作成担当者として協議して介護計画を作成し、チーム会議や申し送り時に他の職員も交えて意見交換し、計画を立案している。	※	公休でもボランティアで参加する時もあり、職員にゆとりがないと、良いケアは出来ない。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 本人及び家族参加では行っていないが、面会時に説明はしている。 (外部評価) 利用者の変化に合わせた計画の見直しが行われ、家族とも相談しながら実践できている。記録も的確に記載できている。	※	時間に追われ無理な時もあるが家族の参加もお願いして行きたい。利用者については、家族とも相談して決めた。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 週間表・バイタル表・記録用紙を利用。職員間は申し送りノートも利用している。	※	見直しに活かされるように努力したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) (外部評価) このホームの運営理念として、「共同生活を営む認知症高齢者に対し、家庭的な環境の中で生活援助員による生活上の指導・援助を行う」事に限定し、他の機能は実施の予定がない。必要時、本人や家族と相談のうえ、他の機能を持つ事業所へ紹介する等の方策を実践している。		今後、運営者、管理者と相談して行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアの方々の協力があり、外部との交流はもてている。	※	本人の意向？と言われれば判断はしにくい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 退居時など、今後についての相談にのってもらい、支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 左記のセンターの運営について理解が十分に出来ていない。	※	連携を図り理解を深めたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的に主治医に受診をしている。他科受診については、家族の希望に添うが、無ければ、関連機関の病院を受診している。 (外部評価) 母体が医療機関であり、ホームの担当医がおり、定期的に往診している。また、利用者が他の医療機関を受診を希望する場合は利用者の希望に添っている。受診介助は家族に利用者の病状を知っていただき、理解を得るため、家族に依頼する場合もある。		今後も利用者の状況の変化に対応して行く。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 母体病院が専門医であるので、受診時に利用者本人からも相談をしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 当ユニットに看護師在中している。勤務が休みでも、他の棟の看護師に連絡をしている。		情報の共有・連携の強化を図って行く。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 家族と連絡は必ず密にしており、主治医から他科の主治医との連絡も取って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 状況変化に応じて、主治医、家族と相談をしている。 (外部評価) ターミナルの取組みは考えていない。管理者個人としては家族のニーズもあり、取組みたい気持ちはあるが、ホームの対象者は原則「歩ける認知症の方」である。また「グループホームが必ずしもベスト」とは言えないので、適切なところへ紹介する方針をとっている。		十分な連携を図る。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 支援方法について、全てを把握出来ていないので、不安がある。	※	今後について、事業所、管理者の意見を把握して、利用者や家族に不安がらないように対応して行きたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族と話し合う機会はあるが、本人への説明は、十分ではなく、難しい面がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の取り扱いについては、入居時に家族に確認をとっている。 (外部評価) 職員は職員のペースでケアをしているのでは？と反省しながらケアに取り組んでいるが、プライバシーを損ねるような対応は見受けられない。	※	声掛け、対応時に馴れ合いになってしまい出来ないときもあるので、配慮したい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日々の中では、色々な訴えに対する対応や説明だけになってしまいがちである。	※	個々の関わりの中でも、希望や思いを伝えられるように努力をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 業務の時間が気になり、職員側のペースで、声掛け、対応をしてしまう事がある。個々の状態の希望を聞くには余裕がない。 (外部評価) 職員は理念に掲げている「ゆったり」も利用者一人ひとりで異なると捉え、利用者それぞれのペースに合わせる支援を心がけ、利用者の思いを尊重しながら強制しないケアに取り組んでいる。	※	出来る限りは、希望をきいてあげられるように努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的または、本人の希望がある時は地域の理髪店を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に合わせた調理方法、盛り付け、配膳を行っているが、無理な日もある。 (外部評価) 職員が季節行事など季節感を考慮しながら献立を立て、利用者と共に食事を楽しんでいる。また、片づけなど利用者ごとの能力に応じて手伝いながら、食事を楽しんでいる。糖尿病の方については母体の管理栄養士にメニューを確認してもらっている。	※	献立、買い物、調理など出来る方にはして頂ける時間を増やして行きたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつを楽しめるように支援している。		医療的疾患を持っており、身体管理との兼ね合いがあるが状況に応じて対応することにより喜びを感じて頂く。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄の間隔を短くしたりして、安全の中で取り組めるように支援している。	※	今後も配慮して行きたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入る様にしていたが、業務時間の都合で一日おきの入浴ではあるが、清潔を保てるように清拭更衣の支援を行っている。5月8日より毎日入浴可能になる。 (外部評価) 各ユニットで異なるが、基本的に毎日入浴できる体制にしている。利用者の希望をできるだけ取り入れ、楽しめるよう努めている。また、入浴時にコミュニケーションを深め、利用者から希望をうかがう機会として活かしている。	※	身体状況に合わせて、楽しめる支援を続けて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況に応じて支援をしている。	※	今後も続けて支援して行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 気分転換が出来る様に、利用者のレベルに合わせた支援をしている。 (外部評価) 職員は、利用者の生活歴や趣味・能力等の情報を本人や家族等から得て、絵を描いてもらったり、食事の片づけや洗濯物の片づけなど能力に合わせて、手伝っていただきながら生活を楽しんでいる。	※	家族に協力をして頂き、生活歴を活かせるように、支援して行きたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) レベルに応じて小銭を持って要る方もいらっしゃるが、理解が出来ているとは言えない。原則的にトラブルの原因にもなるので、ホームが管理をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩は他の利用者で行っているが、他に歩きたい希望については、添ってるとは言えない方が、多い。 (外部評価) 食材の買い出しなど、近くのスーパー等に毎日散歩をかねて出かけている。家族の面会も多く、墓参りなどは家族と共に出かけている。	※	安全面を考えると、中々希望には添えないが、ストレスが堪らない様に、支援したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族への働きかけはしている。	※	中々希望には添えないが努力をして行きたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の要求に対しては、家族に確認を取り、行っている。手紙に関しては、年賀状を家族に出す分には、コメントを書いている。	※	季節に応じたもの(手紙やはがき)を出来る方には、声掛けして行きたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 居室にて会話が出来る様にしている。	※	今後も支援して行きたい。
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会に於いて、話し合いをしたりしているが、全てが出来ているとは言えない。また、職員の自己満足に過ぎない声掛けを行っている面もみられる。	※	今後もお互いに注意が出来る取り組みをしたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間のみ、玄関の施錠をおこなっている。 (外部評価) 管理者も職員も、鍵をかけない生活の大切さを理解していて、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) プライバシーに気をつけながら、いつも目配りをしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 状態を職員間で話し合いながら、管理をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 介助や服薬時には、2名以上のスタッフにて確認をするなど、事故防止に努めている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 月一回、勉強会を行っているが、任意の為に偏りが出ている。	※	自己意識を持ち参加者増やして行きたい。管理者からも声掛けを十分にしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の方にも協力の働きかけを、している。	※	夜間の災害対策は十分とは言えないので、熟知出来る様に努めたい。
			(外部評価) 年2回、定期的に防災訓練を実施している。隣接するホーム所有のホールが地域の避難場所となっている。今後は地域住民と協力して訓練に取り組む予定である。	※	地域との連携を深める為にも、合同訓練の実施に期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に、家族に説明をしている。運営推進会議においても、説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日の申し送りを利用して、共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の支援は誤薬の無い様に、チェック表にて確認をしている。しかし、薬の用法などは熟知出来ていない。	※	全ては無理でも理解に努めたい。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 主治医と相談をして、必要な方には処方をして頂き、食材料にも気をつけている。可能な限り散歩もしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 必ず食後にうがいや歯磨きの声掛けや介助をおこなっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 週間表に摂取量の記入をして、職員が変わっても対応が出来る様にしている。		
			(外部評価) 食事・水分摂取量は個人記録に明確に記載されている。糖尿病などの疾患をもつ利用者については、母体の管理栄養士にメニューを見せてチェックしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種は毎年行い、ノロウイルスに関しても、手洗いやうがい励行、消毒液による掃除を行い予防に努めている。		母体病院の感染委員会との連携。事業所内での学習会により知識の修得を図る。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 職員同士で声掛け、確認も取りながら、管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 民家改造型の建物であるため、庭には植木や花壇もあり、親しみやすい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間にはソファやテレビを置いてあり、日当たりも良い空間である。 <hr/> (外部評価) 3ユニットそれぞれの良さを活かし、ゆったりと過ごせる共用空間となっている。民家改造型のユニットについては、廊下の幅など他のユニットに比べ狭いが、入居対象者が「歩ける認知症の方」であるので、生活に不便は感じられない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 季節に応じて、庭に出れば、ベンチに座って会話が出来たり、居間に於いても自由に会話やおセロを楽しんでいただける様にしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具や布団も持ち込んで頂くシステムにしているが、購入されて持ち込まれた物が多いと感じる。 <hr/> (外部評価) 利用者それぞれに合わせ、使い慣れた家具やテレビ、趣味を楽しめる道具などがあり、利用者の趣味を活かしながら心地良く生活できる居室となっている。		説明は行うが家族に任せるしかないことだと感じる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 使用済みの尿とりパット等については、新聞紙にくるんで臭いの軽減に心がけている。また、換気や温度調整もこまめに配慮をしている。	※	設備機器も長年の使用にて対応が出来ていない時もあるので、使用前には確認を心がけたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 現在は手すりの必要な方はいらっしゃらないが、廊下の手すりの必要性に迫られているが、廊下が狭く設置が難しい面もある。体力低下の防止に散歩や、体操の支援をおこなっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 声掛けにて混乱の克服は出来ている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭や敷地内の散策を自由にされている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	一日に短い時間ではあるが、過ごすようにしている。時には長い時間もある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	共有時間ではない限り、出来ている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の自己満足に過ぎないかもしれないが、努力はしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	敷地内であれば、自由に歩かれている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の不安はあるかもしれないが、家族に対して都度の説明で理解をして頂いている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声掛けにての対応が多いが出来ていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	状況変化については、説明を都度行っている。また相談も受けやすい配慮に心がけている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	ボランティアの方が月に3回みえている。(市内の方)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	むつみの家
(ユニット名)	2 棟
記入者(管理者) 氏名	矢野 幸男 石川 順子
評価完了日	平成 19 年 5 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念を掲げ、ホーム内に張ってある。 (外部評価) 法人によって定められたものを理念として掲げている。法人の理念を職員の理念として活かしていくため、理念を活動の月目標として実践に取り組んでいる。	※	地域密着型サービスの役割を考え、もう一度、理念について検討する必要がある。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員は理念を念頭におき、入居者のケアに反映出来る様に反映している。 (外部評価) 管理者と職員は理念を共有し、理念を月間重点目標として取り上げ、日々のケアを実践している。	※	今後初心を忘れずに取り組んでいきたい。 再構築を予定している理念についても、構築後は従来通り実践の取り組みに期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を通して家族や地域の人々へ説明している。		今後も続けて行きたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩に出かけたときなど近隣の人達に挨拶を交わし関係作りに努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 設立時より、自治会に加入して、地域への働きかけや行事(敬老会・運動会など)への参加も徐々に増やしながら交流を図るようにしている。 (外部評価) 設立時より自治会に加入し、交流を図っている。保育所のクリスマス会や文化祭、小学校へは運動会の職員の参加や利用者の見物、中学生には職場体験等で交流し、地域の方たちとは散歩や買い物時を通じて交流が図れている。	※	今後地域の方の理解を深め、協力が必要な時にもすぐに来て頂けるように、お付き合いをして行きたい。また、GHを理解して頂くためにもGHの行事への案内をして行きたい。 今後ますますの積極的な取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 実習生の受け入れを行ったり、運営推進会議で認知症についての学習会を行ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は全員で取り組み、外部評価の結果を踏まえ改善できる点から早急に対応している。 (外部評価) 3回目の外部調査の受け入れであるが、各回ごとに自己評価にも工夫をして、全職員が評価に対して真摯に討議して取り組んでいる。また、前回指摘された項目に対して、改善の実践に取り組んでいる。		今後も、有効に活用して行きたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議でグループホーム情報や外部評価のを通して家族や地域の人々へ説明を行っている。 (外部評価) 運営推進会議を活用し、利用者のケア実践についての報告と共に家族からの希望や意見をうかがう場としている。また、市行政や地域（自治会長等）からも意見を聞く場となっている。更に認知症の講演や制度の説明など参加者の研修の機会として活かしている。	※	外部評価の結果を踏まえ、活発な意見交換の場にした い。 ※ 運営推進会議は工夫した取り組みができてい る。今後も更なる工夫に取り組み、地域のホームのリーダーとしての活躍を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 管理者が主に行き来をしている。しかし、市役所のグループホームに対する関心の無さを感じる。 (外部評価) 運営推進会議などで事業所の方針や考え方などを説明し、また市行政から意見を聞くなど連携が図れている。	※	今後は十分な連携が取れるように努力して行きたい。 ※ 管理者は勿論、職員の会議参加者を増やし、多数の職員との連携を図ることも期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解できていない。	※	学習する機会を持ち、理解出来る様に取り組みたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止は徹底されているが、法律についての知識については不足している。	※	学習する機会を持ち、理解出来る様に取り組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に生活面、金銭面、事業所の対応できる範囲について等、家族が不安に思う点は十分に説明し理解・納得して頂いている。		今後も十分な説明をして行きたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の言葉や態度で察する時もあるが真意が解り難い時もある。運営に充分反映できないこともある。、外部者に表せる機会が不十分である。	※	利用者が自由に意見など言える雰囲気作りを心がけ、可能な限り反映して行きたい。外部者に対しても運営推進会議など輪活用し相談出来る様にしたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 家族が面会時に来られた時に日々の状況を報告している。また、電話連絡も活用し状況の変化を報告している。その他、定期的な新聞を送付し暮らしぶりを伝えている。 (外部評価) 面会者が多いことがホームの特徴である。また、面会時や手紙等で定期的に利用者の暮らしぶりや金銭管理など家族に報告している。		家族が安心出来るような報告を続けて行きたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が不満や苦情を表せる機会が少ないように思う。 (外部評価) 運営推進会議等を通じて家族の意見を引き出すよう努力している。また、面会時に利用者の日頃の様子を伝えると共に希望をうかがっている。	※ ※	家族が意見を出しやすい雰囲気作りをする。またそういった場を設定して行きたい。 更に、家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに取り組むことを期待する。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 部署会・勉強会といった会はあるが職員の意見が反映されているとは言えない。	※	より多くの職員からの意見を引き出せるよう、工夫が必要だと思う。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応が出来る様な余裕のある人員ではない。	※	状況に応じた柔軟な対応をして行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 現在、固定されており、入居者や家族との馴染みの関係を作ることができている。		※	異動が頻回になると支障が多くなるし、同じ配置が長くなると、馴染みの可能性もあるので、他方面の影響を配慮していきたい。
			(外部評価) 定年などやむを得ない理由で退職したり、母体の病院に異動することはあるが、基本的に職員の異動は少ない。新しい職員が入ったときも利用者に説明し、混乱のないよう配慮されている。			
5. 人材の育成と支援						
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修には職員が満遍なく参加できるよう配慮している。		※	職員から積極的に参加する意欲を引き出して行きたい。
			(外部評価) 法人代表・管理者共に研修の意義を理解しており、職員の研修参加に積極的に取り組んでいる。事業所にとって必要な研修は全額事業所負担、その他の研修は休みを利用し、半額負担で参加している。			
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホームの各研修や相互研修で交流を持つ機会を得ている。		※	現状に満足するのではなく、他の事業所と交流する事により、少しでも成長出来る事を望みたい。
			(外部評価) 定期的に市内ホームの管理者交流会を（年3～4回）開催し、ネットワークづくりを計画している。			
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 積極的な取り組みはない。		※	ストレスを表さないように職員についても配慮が必要だと思う。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 全員の把握を的確には出来ていないと思うが、取り組みはされている。			目に見えない努力や仕事をしている職員にも目を向けて、的確に把握をして欲しい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談から利用までの期間に本人と接する機会は少なく情報は乏しい。、家族から聴く機会の方が多い。実際に入居してからの援助の中から信頼関係を築いている。		初期の段階で出来る最大限の事はしている。認知症の状況によっては本人からの状態把握が難しい。家族からの情報を得ながら取り組んで行く。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族からの話を十分に聞き、その思いを受け止めるように努力している。		引き続き努力をしたい。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の状況など状況確認させて頂き、自ホームでのケアが難しい場合は、他の施設、グループホームへの紹介など、柔軟な対応を行っている。		状況判断を的確にするために、情報を入手して、支援に取り組みたい
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) まずは棟内を見学して頂き、雰囲気を感じてもらっている。面会時を活用し職員との関係作りに努めている。	※	本人が納得して入居されることはほとんどないため入居してからの様々な関係作りにポイントをおいて支援している。
			(外部評価) 小規模多機能型の機能を持たない単独型のホームであるため、デイサービスやショートステイなどを利用してからの入居ではないが、家族や本人に見学してもらい雰囲気等を確認のうえ入居へつなげている。	※	入居してからの関係づくりに努めているが、ホーム長や職員の事前訪問などを取り入れ、入居前からの馴染みの関係づくりを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 入居者と職員がお互いに協力し合い生活を共にしている。		時間的に難しい時が多いが、いろいろな機会を利用し関係作りを図りたい。
			(外部評価) 家族と共に利用者を支える姿勢が見受けられ、良い関係づくりができています。	※	支援する側、される側と言う考え方を持たないケアに取り組んでいるが、継続したケアの実践を期待する。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 思いは同じだと思いが、家族によって状況には異なっている。	※	家族の思いを聞く機会を増やし、共に支える関係を作って行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 外出・外泊・行事への参加を勧め関係作りを支援しているが、家族により状況は異なっている。	※	家族の思いを聞く機会を増やし、共に支える関係を作って行きたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人・知人等の面会に来て下さっているが、本人から出向く事はない。	※	面会に訪れやすい雰囲気作りをし、関係の継続が出来る様支援したい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を把握し、トラブル時の早急な対応を心がけ、和やかに過ごせる様に気遣っている。		全員が仲良く出来るのがベストではあるが、性格も違うし、妄想の対象にもなりうる。孤立されないように努めたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居された後も、お会いすれば挨拶を交わしたり、状況をお尋ねする時もある。また、家族からの相談があれば受けている。		個人情報に関わる事もあるので配慮は必要である。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で把握に努めている。 (外部評価) 会話や表情などから思いや意向を察知し、思いの把握に取り組んでいるが、職員はまだまだ十分な捉え方ではないと前向きに考え、常に利用者の立場に立てるよう取り組んでいる。		本人の希望、意向を最小限でも家族と相談して行きたい。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のデータベースを参考にしている。また、家族から聞いたり、本人との会話の中からこれまでの暮らしの把握に努めている。	※	現在は不十分である。センター方式などを活用し充実を図って行きたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一日の過ごし方や心身の状況を把握し、ケアに活かせる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族から希望は少なく職員間で作成している (外部評価) 担当職員制を取り入れ、担当職員が計画作成担当者と協議して介護計画を作成し、チーム会議や申し送り時に他の職員も交えて意見交換し、計画を立案している。	※	本人や家族の意見を積極的に取り入れ、本人主体の介護計画の作成に取り組む。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画に対して、ほぼ1ヶ月毎の評価を行い、その間に状況が変われば計画を作り直す様努めている (外部評価) 利用者の変化に合わせた計画の見直しが行われ、家族とも相談しながら実践できている。記録も的確に記載できている。	※	不十分であり充実を図る。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別カルテ、週間介護計画表に記入し、情報の共有を図っている。	※	不十分であり充実を図る。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診の付き添いや、本人希望の外出等柔軟な対応を心掛けている。 (外部評価) このホームの運営理念として、「共同生活を営む認知症高齢者に対し、家庭的な環境の中で生活援助員による生活上の指導・援助を行う」事に限定し、他の機能は実施の予定がない。必要時、本人や家族と相談のうえ、他の機能を持つ事業所へ紹介する等の方策を実践している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアの訪問がある。		今まで以上に地域資源を活用し入居者個々のニーズを支援出来る様にしたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に市の関係職員が参加し情報交換を行っている。	※	昨年度までは交流がなされていない。今年度から運営推進会議のメンバーとして関わることが出来る。互いの理解を深めたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望する医療機関での受診を行っている。家族が受診に付き添えない場合は職員が代行している。 (外部評価) 母体が医療機関であり、ホームの担当医がおり、定期的に往診している。また、利用者が他の医療機関に受診を希望する場合は利用者の希望に添っている。受診介助は家族に利用者の病状を知っていただき、理解を得るため、家族に依頼する場合もある。		今後も家族と協力し入居者の状態にあった支援をしたい。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 母体病院、担当医が専門であり、いつでも相談受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置し、入居者の状態の変化に応じた支援を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入居者の身体状況に応じて、家族と相談し、入退院の支援を行っている。入院時は病院側への情報提供を行い、本人のケアにつないでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に説明を行い状況に応じて家族へ説明しているが、認識の差がある。 (外部評価) ターミナルの取り組みは考えていない。管理者個人としては家族のニーズもあり、取り組みたい気持ちはあるが、ホームの対象者は原則「歩ける認知症の方」である。また「グループホームが必ずしもベスト」とは言えないので、適切などころへ紹介する方針をとっている。	※	状況の変化に応じて繰り返し話し合うことが必要だと思う
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 医師、管理者、職員と話し合い、家族の希望を取り入れながら、本人にとって、最善の方法を検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報提供を行っているが、関係者間の話し合いは十分ではない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 気を付けているものの、誘導の声掛け等に配慮のかけている所もある。 (外部評価) 職員は職員のペースでケアをしているのでは？と反省しながらケアに取り組んでいるが、プライバシーを損ねるような対応は見受けられない。	※ ※	職員間での話し合いを徹底していきたい。 プライバシーの確保を常に念頭に置きながら取り組まれることを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 会話の中で希望を聞きだしたり、本人が選ぶことが出来る場面をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) どちらかといえば、業務を優先し、希望に添えないことがある。 (外部評価) 職員は理念に掲げている「ゆったり」も利用者一人ひとりで異なると捉え、利用者それぞれのペースに合わせる支援を心がけ、利用者の思いを尊重しながら強制しないケアに取り組んでいる。	※	本人のペースは大切にしているが、希望に沿っていない部分を改善
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 各自使い慣れた化粧品を使用したり、本人の力量に合わせた身だしなみの支援を行っている。理・美容は、近所の馴染みの店を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けについては、する人に片寄りがあり、継続的ではない。 (外部評価) 職員が季節行事など季節感を考慮しながら献立を立て、利用者と共に食事を楽しんでいる。また、片づけなど利用者ごとの能力に応じて手伝いながら、食事を楽しんでいる。糖尿病の方については母体の管理栄養士にメニューを確認してもらっている。	※	一人一人の有する力を見極め、出来る力が発揮できる場面作り。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつに関しては、一人一人の希望に添っていない時もある。	※	本人の身体面を考慮しながら、検討する。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 各自の力量に合せ、パットや紙パンツを使用を検討し、トイレ誘導をしながら、可能な限りトイレでの排泄を支援している。		個々の状況にあった対応を継続して行く。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 時間帯は決まっているが、一人一人の希望や心身の状況に応じた入浴支援を行っている。 (外部評価) 各ユニットで異なるが、基本的に毎日入浴できる体制にしている。利用者の希望をできるだけ取り入れ、楽しめるよう努めている。また、入浴時にコミュニケーションを深め、利用者から希望をうかがう機会として活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の状態に合わせてその日に必要な活動や、休息が取れる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 各自の出来る事や楽しみを把握し、場面に応じて支援している。 (外部評価) 職員は、利用者の生活歴や趣味・能力等の情報を本人や家族等から得て、絵を描いてもらったり、食事の片づけや洗濯物の片づけなど能力に合わせて、手伝っていただきながら生活を楽しんでいる。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 理解はしているが盗られ妄想が多く所持していない	※	個々の物を買う時は同行して、支払いは本人にしてもらう等の支援を行う。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 本人の希望に応じて散歩、買い物、ドライブ等外出支援をしている。 (外部評価) 食材の買い出しなど、近くのスーパー等に毎日散歩をかねて出かけている。家族の面会も多く、墓参りなどは家族と共に出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 行事の中で外出の機会は設けているが、「行ってみたい。」という希望の場所ではない。	※	希望は聴き、機会は設けたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来る状況にあるが、積極的な支援には繋がっていない。	※	年賀状は出せているが、手紙の返事は出せていないので、代筆などでも返事が出せるよう支援する。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間は特に設けず、いつでも来て頂ける様配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解し取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関に鈴をつけ、外出が分かる様にし、止める事はせず、見守りや一緒にいく事で自由に入出入り出来る様配慮している。 (外部評価) 管理者も職員も、鍵をかけない生活の大切さを理解していて、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は入居者を見守りやすい場所で作業し、常に入居者の所在の把握に努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人一人の状況に応じて、対応し管理方法を検討している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告やインシデントの記録はしているが、事故防止に繋がっていない。	※	事故報告やインシデントの記録を共有し全職員が認識することで、事故防止につなげたい。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 実施しているが、定期的ではない。	※	勉強会等で定期的に行い、いざという時に対応できる技術を身に付けたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を実施している。	※	運営推進会議通じて、働きかける。地域の人を交えて訓練を実施する。
			(外部評価) 年2回、定期的に防災訓練を実施している。隣接するホーム所有のホールが地域の避難場所となっている。今後は地域住民と協力して訓練に取り組む予定である。	※	地域との連携を深める為にも、合同訓練の実施に期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 入居者の状況により起こり得るリスクと普通の生活の大切さを家族に説明し家族と相談のうえ本人の生活に支障のない対策をとっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 各自の様子等の変化に留意し、状況に応じてバイタルチェックを行っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 副作用までのすべての把握ができていない。	※	薬に関する勉強をし、知識を深めていく。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事に野菜を多く取り入れ便秘予防に努めたり、日中散歩等の活動を支援しているが、必要に応じて服薬も行っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 全員が毎食後ではないが、各自の習慣や意向を踏まえ、個別に支援し、就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量の記録をし職員間で共有している。水分が足りない入居者には、水分量のチェックを行い、大きな把握はできている。	※	減塩に取り組みたい
			(外部評価) 食事・水分摂取量は個人記録に明確に記載されている。糖尿病などの疾患をもつ利用者については、母体の管理栄養士にメニューを見せてチェックしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 取組みがあり早期対応を行っている。また、消毒の日を決めており、予防にも取り組んでいる。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板や布巾は毎日消毒している。食材は期限や状態を確認し安全な物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花を植えたり、ベンチを置き、親しみやすい環境にしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活感、季節感を損なわない様気をつけている。 (外部評価) 3ユニットそれぞれの良さを活かし、ゆったりと過ごせる共用空間となっている。民家改造型のユニットについては、廊下の幅など他のユニットに比べ狭いが、入居対象者が「歩ける認知症の方」であるので、生活に不便は感じられない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個室と共有スペースを思い思いに活用してしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に説明し使い慣れたものを使用している。 (外部評価) 利用者それぞれに合わせ、使い慣れた家具やテレビ、趣味を楽しめる道具などがあり、利用者の趣味を活かしながら心地良く生活できる居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) トイレに窓がなく、換気に困っている	※	換気扇の修理
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物の構造上問題点が多い。	※	手すりの設置、段差の緩和
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 状況に応じて環境整備に努めている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 外気浴をしたり、楽しめるスペースになっている。	※	車椅子の人も出入りしやすい環境整備

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) ③利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	具体的な思いを伝える人は少なく表情等から察しても本当の思いを掴んでいると言 い難い
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過 す場面がある	(自己 ①毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつは職員も同席し世間話を楽しんでいる。又、共同作業をゆっくりと行 えるように努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮ら している	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	特に強制がないので、思い思いのペースで過ごしていると思う。
91	利用者は、職員が支援することで生き 生きとした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声掛けにより大きく変化していると思う。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出 かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外気浴や近所の犬を見に行ったり、敷地内は自由に出ているものの、敷地外は安全 面から職員が同行している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面 で不安なく過ごしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全く不安のない入居者はいないと思うが、バイタル測定時や受診時等「安心だ」と 言っておさる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じ た柔軟な支援により、安心して暮ら せている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況に応じた支援を出来る限り行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安 なこと、求めていることをよく聴いて おり、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時等家族から話を伺うよう心掛けていますが、真意は掴みきれない。
96	通いの場やグループホームに馴染 みの人や地域の人々が訪ねて来 ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	毎日ではないが、面会者あり。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	具体的な
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議では意見交換もできており、徐々に深まっていると思う。
98	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔が多い
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	穏やかな表情をしていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	表情から察して

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)入所者、職員が豊かな感性を持ち生活を共にしています。喜怒哀楽の激しい入居者の喜びや楽しさを倍に、怒りや哀しみを半減出来る様、職員は傾聴と受容を心掛けています。笑顔で接することにより、入居者の笑顔も多く、温かい雰囲気になっていると思います。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 むつみの家

(ユニット名) 3 棟

記入者(管理者)
氏名 矢野 幸男
永野 三千代

評価完了日 平成 19 年 5 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念を作っている。のんびり、たのしく、いっしょに、同じ人として、喜怒哀楽を共感し合い、その人にとってたのしい空間となるよう家族、地域社会との関わりを持ちお互いに支援している。 (外部評価) 法人によって定められたものを理念として掲げている。法人の理念を職員の理念として活かしていくため、理念を活動の月目標として実践に取り組んでいる。	※	地域密着型サービスの役割を考え、もう一度、理念について検討する必要がある。 法人の理念を踏まえ、地域密着型サービスの役割を考え、理念の再構築に取り組む予定がある。その取り組みに期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員は理念を念頭におき、入居者のケアに反映、入居者中心のケアが出来る様にしている。 (外部評価) 管理者と職員は理念を共有し、理念を月間重点目標として取り上げ、日々のケアを実践している。	※	今後も初心を忘れずに取り組んでいきたい。 再構築を予定している理念についても、構築後は従来通り実践の取り組みに期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族には訪問時、家族会など折に触れ説明している。定期的に行うようになった運営推進会議を通しても家族や地域の人々へ説明している。地域活動へも積極的に参加し理解を得たい。		今後も続けて行きたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物に出かけたり近隣の人達と気軽な付き合いができています。時には取れた手の野菜を頂いたり、環境整備を手伝ってくれたりしています。		今後も地域の方の理解を深め、協力が必要な時にもすぐに来て頂けるように、お付き合いをして行きたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 設立時より、自治会に加入して、地域への働きかけや行事(敬老会・運動会など)への参加も徐々に増やしながら交流を図れるようにしている。保育所の園児やボランティアの訪問など地域交流も良好である。 (外部評価) 設立時より自治会に加入し、交流を図っている。保育所のクリスマス会や文化祭、小学校へは運動会の職員の参加や利用者の見物、中学生には職場体験等で交流し、地域の方たちとは散歩や買い物時を通じて交流が図れている。	※	今後も地域の方の理解を深め、協力が必要な時にもすぐに来て頂けるように、お付き合いをして行きたい。また、GHを理解して頂くためにもGHの行事への案内をして行きたい。 今後ますますの積極的な取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催、地域の方を含めて認知症についての学習会を行ったりしている。地域の方が気軽に訪問してくれるような雰囲気づくりに努めている。		今後も地域の方の理解を深め、協力が必要な時にもすぐに来て頂けるように、お付き合いをしていきたい。また、GHを理解して頂くためにもGHの行事への案内をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は全員で取り組み、サービスの向上に努めている。話し合ったことをスタッフ一人一人が自分のこととして捉えることの出来る様に改善話し合いを充分にしたい。 (外部評価) 3回目の外部調査の受け入れであるが、各回ごとに自己評価にも工夫をして、全職員が評価に対して真摯に討議して取り組んでいる。また、前回指摘された項目に対して、改善の実践に取り組んでいる。	※	職員全員が評価の意義を理解し積極的に取り組みたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 決まったスタッフの参加になっており運営推進会議の内容の報告が不十分である。全く知らないスタッフもいる。 (外部評価) 運営推進会議を活用し、利用者のケア実践についての報告と共に家族からの希望や意見をうかがう場としている。また、市行政や地域（自治会長等）からも意見を聞く場となっている。更に認知症の講演や制度の説明など参加者の研修の機会として活かしている。	※	これからは交替で参加、会議後は報告し理解を深める。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市行政担当者に事業所の考え方、取り組みを積極的に報告、課題解決に向けた取り組みをしている。 (外部評価) 運営推進会議などで事業所の方針や考え方などを説明し、また市行政から意見を聞くなど連携が図れている。	※	管理者だけの交流でなく他のスタッフの交流の機会を持つ。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ青年後見人制度の必要なケースはないため、十分な理解は出来ていない。	※	学習する機会を持ち、理解出来る様に取り組むたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止は徹底されているが、法律についての知識については不足している。	※	学習する機会を持ち、虐待防止に対する理解が出来る様に取り組むたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に生活面、金銭面、事業所の対応できる範囲について等丁寧の説明している。、家族が不安に思う点は十分に説明し理解・納得して頂いている。入居者の状態の変化に応じて契約解除になるときは家族との話し合いを蜜にとっている。		今後も十分な説明をして行きたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の言葉や態度で察する努力をし利用者中心の生活支援を心掛けている。利用者の意見にも耳を傾けその都度話し合っている。毎月、スタッフ・利用者ミーティングを行っていたが現在は行えていない。	※	特定の利用者ではあるが会を開いてほしいという希望もある。以前のように定期的に開催できるように利用者の意見を吸い上げられるようにしたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 家族が面会時に来られた時に日々の状況を報告している。また、訪問の少ない家族などは電話連絡も活用し状況の変化を報告している。その他、定期的な新聞を送付し暮らしぶりを伝えている。 (外部評価) 面会者が多いことがホームの特徴である。また、面会時や手紙等で定期的に利用者の暮らしぶりや金銭管理など家族に報告している。		家族が安心出来るような報告を続けて行きたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族に何でも言っていただけの雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 運営推進会議等を通じて家族の意見を引き出すよう努力している。また、面会時に利用者の日頃の様子を伝えると共に希望をうかがっている。	※ ※	家族が意見を出しやすい雰囲気作りをする。またそういった場を設定して行きたい。 更に、家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに取り組むことを期待する。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者や管理者は、職員の意見や要望を聞くよう心掛けているが、不満や苦情は言い難いため十分に把握できていないと思われる。	※	より多くの職員からの意見を引き出せるよう、個別面談ミーティングを行ったり工夫が必要だと思う。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者は柔軟な対応が出来る様通常のシフトからはずれ、夜間の対応や利用者・スタッフの状況に応じた対応が出来る体制が取れている。		状況にて応じた柔軟な対応をして行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 基本的には各ユニットの職員は固定されており、入居者や家族との馴染みの関係を作ることができている。新しい職員が入った時も利用者には説明戸惑いを最小限にしている。		異動が頻回になると支障が多くなるし、同じ配置が長くなると、馴染みの可能性もあるので、他方面の影響を配慮していきたい。
			(外部評価) 定年などやむを得ない理由で退職したり、母体の病院に異動することはあるが、基本的に職員の異動は少ない。新しい職員が入ったときも利用者には説明し、混乱のないよう配慮されている。	※	馴染みの関係の大切さを活かし、馴染み合いとの区別に配慮しながらケアに取り組むことを希望する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修には職員が満遍なく参加できるよう配慮している。また、事業所内の研修も月1回実施している。	※	職員が積極的に参加する意欲を引き出して行きたい。
			(外部評価) 法人代表・管理者共に研修の意義を理解しており、職員の研修参加に積極的に取り組んでいる。事業所にとって必要な研修は全額事業所負担、その他の研修は休みを利用し、半額負担で参加している。	※	職員の研修参加に対するさらなる意欲を期待する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホームの各研修や相互研修で交流を持つ機会を得ている。		現状に満足するのではなく、他の事業所と交流する事により、少しでも成長出来る事を望みたい。
			(外部評価) 定期的に市内ホームの管理者交流会を（年3～4回）開催し、ネットワークづくりを計画している。	※	現状に甘んじることなく、常に向上に取り組まれる姿勢の継続を期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 運営者は、管理者や職員個々のストレスについてはあまり理解できていないと思う。又、気分転換できる休憩場所もない。	※	ストレスを表さないように職員についても配慮が必要だと思う。個々に話し合う機会を設定する必要がある。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 全員の把握を的確には出来ていないと思うが、取り組みはされている。	※	運営者は頻りに現場に足を運び利用者・職員の悩み事、業務について話す機会を持つことが必要。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談から利用までの期間に本人と接する機会は少なく情報は乏しい。本人の思いや不安を受け止め安心して生活して頂けるよう努力している。	※	よりよい関係作りのため、プライバシーに配慮しながらご家族などから利用者の昔の様子を尋ねたりするがご家族も理解が不十分で情報の収集が難しい。今後も家族との信頼関係の構築を図り利用者の方の生活支援に努めたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談するご家族の立場に立ち、ご家族の話としっかりと聴き受け止めながら関係を築くことを心掛けたい。		引き続き努力をしたい。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要か見極め、出来る限りの対応に努めている。		状況判断を的確にするために、情報を入手して、支援に取り組みたい
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) まずは本人・家族に棟内を見学して頂き、雰囲気を感じてもらっている。ご家族とのコミュニケーションを密にとり関係作りに努めている。 (外部評価) 小規模多機能型の機能を持たない単独型のホームであるため、デイサービスやショートステイなどを利用してからの入居ではないが、家族や本人に見学してもらい雰囲気等を確認のうえ入居へつなげている。	※	本人が納得して入居されることはほとんどないため入居してからの様々な関係作りにポイントをおいて支援している。 入居してからの関係づくりに努めているが、ホーム長や職員の事前訪問などを取り入れ、入居前からの馴染みの関係づくりを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 常に家族と同時に支える関係を心掛けている。入居者と職員がお互いに協力し合い生活を共にしているが時に職員の意見を通してしまうことがある。 (外部評価) 家族と共に利用者を支える姿勢が見受けられ、良い関係づくりができています。	※	支援される側、支援する側という意識を持たずお互いが協働しながら和やかな生活が出来る場面づくりや声掛け
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者のご家族によって状況には異なっている。協力関係が築けている家族もあれば任せ切の家族もある。	※	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、家族と一緒に支える関係を作って行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族、本人の思いや状況に応じて外出・外泊でご家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事にご家族を誘ったりしながらよりよいかんけいの維持に努めている。	※	疎遠になりがちなご家族にはほんにん、ご家族の状況を見極めながら積極的にアプローチし日頃の状況をこまめに報告し関係が途切れないようにする。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 一人一人の生活習慣を尊重している。入所してからは、やはり依然関わっていた方や馴染みの場所（特に自宅を心配される方が多い）後家族との関係もあるが疎遠になりがちである。	※	継続的な交流が出来る様に働きかけて行く。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係がうまくいく様職員が間に入って調整役となっている。個々に話を聞いたりしている。		全員が仲良く出来るのがベストではあるが、性格も違うし、妄想の対象にもなりうる。孤立されないように努めたい。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 声掛、把握に努めているが、あまり出来ていない。ご家族としてもあまり継続されたくないケースもある。	※	事業所の方から行事等に招待したり、長期継続に向けたフォローをしては？
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉や表情などから察したり、それとなく確認、声掛し把握に努めている。まだまだ不十分である。 (外部評価) 会話や表情などから思いや意向を察知し、思いの把握に取り組んでいるが、職員はまだまだ十分な捉え方ではないと前向きに考え、常に利用者の立場に立てるよう取り組んでいる。	※	本人の視点に立って意見を出し合い何が最良なのか家族を交え検討する。個別の関わりの時間を多く持つ。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前にご本人・ご家族・関係者などから聴き取りをしているがご家族事態が充分把握できていないことがある。	※	現在は不十分である。ご家族のプライバシーに配慮しながら情報の収集に努めたい。センター方式などを活用し充実を図って行きたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の生活リズムを理解し少しの変化にも気づけるよう観察している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族には思いや意見を聞いているがカンファレンスには参加していない。ご本人にも希望などは聴けていない(あじ意見を言わない)が、日々の関わりの中から読み取りプラン作成をしている。 (外部評価) 担当職員制を取り入れ、担当職員が計画作成担当者と協議して介護計画を作成し、チーム会議や申し送り時に他の職員も交えて意見交換し、計画を立案している。	※	本人や家族の意見を積極的に取り入れ、本人主体の介護計画の作成に取り組む。ご家族にもカンファレンスへの参加をアプローチして行く。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 利用者の変化に応じてミーティングなどを行い見直しをしているが記録として残すことが出来ていない。 (外部評価) 利用者の変化に合わせた計画の見直しが行われ、家族とも相談しながら実践できている。記録も的確に記載できている。	※	毎月の介護計画の見直しを実施して行く。途中変化があったときは計画書への記録を追加して行く。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日具体的ケアプランの記入介護記録の記入週間予定表の記入をこまめに行なっている。		
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診時の送迎等行っている。 (外部評価) このホームの運営理念として、「共同生活を営む認知症高齢者に対し、家庭的な環境の中で生活援助員による生活上の指導・援助を行う」事に限定し、他の機能は実施の予定がない。必要時、本人や家族と相談のうえ、他の機能を持つ事業所へ紹介する等の方策を実践している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 利用者が安心して楽しく生活出来る様に周辺施設への働きかけ(保育園・自治会・病院関係・ボランティア等)を行なっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 外出した際地域の施設や店を利用したり、散髪や病院等も本人の必要性に応じて地域のサービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 実際にまだ活用した事は無い。いつでも連携のとれる体制である。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望する医療機関へ受診されている。 (外部評価) 母体が医療機関であり、ホームの担当医がおり、定期的に往診している。また、利用者が他の医療機関に受診を希望する場合は利用者の希望に添っている。受診介助は家族に利用者の病状を知っていただき、理解を得るため、家族に依頼する場合もある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門の主治医がおり2週間に1度診察あり。一人一人時間をゆっくりとり親身に対応してくださっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 3棟のユニット内には看護職員もおり、看護職員の居ない時でも、常に連絡が取れるような体制をとっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 本人は安心していただけるよう、スタッフも様子を見に行ったり、家族、医療機関とも情報交換している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 運営方針として終末期の方を対象にはしていないが、日常の健康管理や急変時には家族・医師・看護婦を交えて話し合いを持っている。 (外部評価) ターミナルの取組みは考えていない。管理者個人としては家族のニーズもあり、取組みたい気持ちはあるが、ホームの対象者は原則「歩ける認知症の方」である。また「グループホームが必ずしもベスト」とは言えないので、適切どころへ紹介する方針をとっている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い職員間でも変化のあるたび話し合っている。また急変時はすぐ対応していただけるよう医療機関とも密に連携を図り対応している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入院されたり、他施設へ移られた場合はアセスメント・ケアプラン・サマリー等支援状況を手渡すと共に情報交換も行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) その時の場合によるが、利用者一人一人への言葉掛けが充分でない時もある。たまに職員側で決めた事を押し通してしまう時がある。常に家族同様な声掛けで対応しているが、感情が入ってしまう時もある (外部評価) 職員は職員のペースでケアをしているのでは？と反省しながらケアに取り組んでいるが、プライバシーを損ねるような対応は見受けられない。	※	日々の関わり方を常に点検し利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応に努める。
				※	プライバシーの確保を常に念頭に置きながら取り組まれることを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、ジェスチャーで表現したり、その方に合わせて声掛けしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人自由な時間を過ごして頂いているが基本的な一日の流れはこちらで決めさせて頂いている。食事時間・入浴等こちらのペースで行なっていることが多いが本人の希望のあるときは無理強いせず本人に合わせている (外部評価) 職員は理念に掲げている「ゆったり」も利用者一人ひとりで異なると捉え、利用者それぞれのペースに合わせる支援を心がけ、利用者の思いを尊重しながら強制しないケアに取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 爪きり・散髪も定期的に行なっている。美容室等行きつけのある方に行って頂いている。自己決定がしにくい方には職員が一緒に考えておかしい時はさりげなく直している。また、化粧品等も使用したい方は使っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立は職員側が決めていることが多いがその季節行事に合わせて美味しく食事して頂ける様に工夫している。手伝いが出来る方には負担にならない程度にお願いしている。夕食時だけがスタッフも一緒に食事をとっている。 (外部評価) 職員が季節行事など季節感を考慮しながら献立を立て、利用者と共に食事を楽しんでいる。また、片づけなど利用者ごとの能力に応じて手伝いながら、食事を楽しんでいる。糖尿病の方については母体の管理栄養士にメニューを確認してもらっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在、煙草を希望されている方はおられない。お酒・飲み物・おやつ等健康管理上抑制しないといけない方にはこちらで調整している。状況に合わせておやつ・食事等工夫し季節行事等も配慮しお出ししている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) できるだけオムツは使用していない。失敗しても洗濯すれば良いと考え、使わない方針である。しかし、夜間の睡眠を妨げる様な失禁時には使用したりその時の体調により、使い分けている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴は基本的に毎日行なっているが、出来る限り時間をずらしたり、本人のタイミングに合わせているがある程度あわせて頂いていることが多い。入浴拒否する方には無理強いはしない。 (外部評価) 各ユニットで異なるが、基本的に毎日入浴できる体制にしている。利用者の希望をできるだけ取り入れ、楽しめるよう努めている。また、入浴時にコミュニケーションを深め、利用者から希望をうかがう機会として活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人体調や表情、希望に応じて休憩を取っていただいている。眠れないときには眠れるよう声掛けを行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) その方のレベルに応じて力を発揮できるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えている自分の役割として楽しんで手伝って下さっている方もいる。 (外部評価) 職員は、利用者の生活歴や趣味・能力等の情報を本人や家族等から得て、絵を描いてもらったり、食事の片づけや洗濯物の片づけなど能力に合わせて、手伝っていただきながら生活を楽しんでいる。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にはお金の管理には事務所が管理しているが希望される方には少額ではあるが、自分で管理して頂いている方もいる。外出時には個々にお金を持ち自分で支払って頂いている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 本人の希望があるときは出来る限りの支援を心掛けているが、まだまだ少ない。 (外部評価) 食材の買い出しなど、近くのスーパー等に毎日散歩をかねて出かけている。家族の面会も多く、墓参りなどは家族と共に出かけている。	※	一人一人の習慣や馴染みの場所に出掛けて行けるよう時間を作る。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の協力も得て外出等行なっている	※	まだまだ少ないので、本人の希望を聞き外出の機会を多くとりたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時は自由に電話を使用していただいている。手紙を書く方は少ないが自由に書いて頂き、出している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会の方にはお茶もお出しし、自室等で気兼ねなく過ごして頂いている、家族とスタッフも気軽に会話が出来ている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解できており、身体拘束は行っていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中鍵を掛けることはない。 (外部評価) 管理者も職員も、鍵をかけない生活の大切さを理解していて、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは利用者を見守りやすいところで作業を行い夜間は数時間ごとに利用者の様子を観察し24時間安全を配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態により異なるが、はさみ等も自己管理されている方もいる。全てを取り除く様な事はしていない。		認知症状、精神状況を考慮し対応する。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 誤嚥のリスクの高い利用者には食物を細かくしたりトロミアップ等も使用している。また服薬に関しても何度もチェック確認している。何かあったときには、報告書も書いている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルはあるが、訓練は定期的には行っていない。	※	定期的に勉強会を行なう。個人的にも勉強する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回防火訓練あり。緊急連絡網を作っている。地域での避難場所は把握できていない。	※	地域での避難場所を自治会等に問い合わせ確認しておく
			(外部評価) 年2回、定期的に防災訓練を実施している。隣接するホーム所有のホールが地域の避難場所となっている。今後は地域住民と協力して訓練に取り組む予定である。	※	地域との連携を深める為にも、合同訓練の実施に期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者一人一人に起りえるリスクを把握できている。家族にも対応策を説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 改善の状況を把握しており体調や些細な表情の変化も見逃さないよう対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の処方箋をファイルに職員が目を通せるようにしている。新しい薬が処方されたときは副作用等に十分に注意し、観察している。	※	個々に薬について学習する。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便通を促す為毎朝乳製品を使用。水分、食物繊維を多めにとって頂ける様にしている。便秘時は薬にて対応。便の確認、観察を行なっている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的に義歯洗浄、毎日口腔ケア行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取量もまずまず確保できている。食事量は多めである。	※	水分補給、高カロリーに注意し献立に工夫・適時の声掛けをする。
			(外部評価) 食事・水分摂取量は個人記録に明確に記載されている。糖尿病などの疾患をもつ利用者については、母体の管理栄養士にメニューを見せてチェックしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対して、母体病院での勉強会への参加。利用者、職員共にインフルエンザの予防接種。ペーパータオル使用。毎日次亜塩素消毒。手洗いを徹底している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 魚貝（生もの、二枚貝の制限）食品も毎日新鮮な物を使用している。	※	冷蔵庫内の点検を欠かさず行なう。買いだめもしないようにする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 外周りに草木がある為虫が多くなってきている。また水周りの関係でコケが生えている所もある。現在の利用者の状況で室内等殺風景であるがやむを得ない。	※	利用者の状況等にて室内に物を置くと安全面で問題がある為現在殺風景であるが様子を見て工夫していく。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者のレベルに応じた環境作りをしているが、不快な環境ではない。 (外部評価) 3ユニットそれぞれの良さを活かし、ゆったりと過ごせる共用空間となっている。民家改造型のユニットについては、廊下の幅など他のユニットに比べ狭いが、入居対象者が「歩ける認知症の方」であるので、生活に不便は感じられない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファを置いているが全員で共有している為一人になれることはない。食卓は自分の決まった席がある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使用しているものを持参して頂いている。危険物以外は全て本人の好みのもので、使い慣れた物を使用されている。 (外部評価) 利用者それぞれに合わせ、使い慣れた家具やテレビ、趣味を楽しめる道具などがあり、利用者の趣味を活かしながら心地良く生活できる居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気その都度行なっている。加湿器も使用して調整している。	※	各部屋に温度計を設置していないので、温度変化のためにも設置していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下には手すりが無い。浴室の手すりは使い易い様に設置し直した。他棟への移動経路もスロープを設置した。	※	廊下の手すりがあれば、長い廊下なので安全に移動できると思う。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 本人の不安、混乱を取り除くようその都度職員全員で話し合っている。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 棟の周辺はベンチを置いたり自由に外気浴が出来る。またはなを眺める事が出来るよう環境作りも工夫している。	※	まだまだ楽しめる場所が少ない。外回り等活用できる所があるので、利用者の好みに合わせて楽しめるような場所を作っていきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	入居者により異なる。自分の感情を表に出す方もいれば、自分の思いを上手く伝えず我慢している方もいると思う。思いを掴もうとして、感情を聞き出そうとしても「何でもない。」と遠慮されている方もいる。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	一日の中で夕食時、おやつ時等、少しの時間ではあるが利用者と共に過ごしている。その他個人的に個別に対話の機会を持つ様に努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	自分の好きな時間を過ごしている。自室で臥休、TV、読書されたり、リビングでも自分のペースで過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	職員が声を掛けると嬉しそうにいろんなお話等聞かせてくださったり笑顔も多く見せてくださる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	限られた方のみである。戸外へ行かれるときは本人の了解を得て一緒に同行している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	些細なことでも職員が察して早めに対応出来ている。毎日バイタルチェックや入浴時も身体状況の観察も行なっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	出来る限り利用者中心にと心がけている。自分の感情を表に出さない方もいるのでそんな方にはスタッフが察して支援させて頂いている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	面会時等家族から困っている事、不安なこと、要望等お話を伺っている。家族との関係も良好だと思われる。面会の少ない家族には、こちらから連絡し利用者の状況も含め、家族の様子も伺っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	あまり訪れていない。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	具体的な
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議ではたくさんの地域の方も参加していただき活発な意見も出ている。良好な関係が築けていけている。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	常に笑顔で接している。利用者のことを親身になり対応している為精神的に疲れているスタッフも多い。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	まだまだ満足して頂けていないと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	何かあればその都度その都度意見を言ってもらっている。家族の方からはむつみの家で生活させて頂いて本当に良かった。利用者の表情も良くなったと言って下さる家族も多い

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価) 入居者の健康管理と安全確保の為に日々の身体の変化をいち早く察知し、ケアを行なっている。職員は家族同様な存在として思ってもらえる様に常に笑顔を絶やさず暖かい声掛けをし見守っている。